苫小牧の美術館の魅力を伝える

びとこま

第5号
2013年4月号

平成25年2月23日（土）、びとこま記者は、札幌にある二つの美術館へ向かい、北海道立三岸好太郎美術館では『音楽のある美術館4』（2013年1月25日～3月31日）、北海道立近代美術館では『AINU ART －風のかたりべ』（2013年2月2日～3月24日）を見て、それぞれの美術館で働く学芸員さんのお話を聞きました。

☆☆☆

わたしたちは、JRや地下鉄に乗り、札幌の美術館に行きました。

汽車に乗って思ったことは、すごいな～と思いました。汽車は小さいころに乗っていたけど、寝ていたので景色は分かりません。運転手さんが、なんかへんなことをやっていたので、へんだな～と思いました。先頭のところを見ていたので、すごいな～と思いました。すごいゆれたので大へんでした。地下鉄は、すごいはやかったです。地下鉄は見る物がなかったのでねむたかったです。阿部天翔

最初は三岸好太郎美術館です。札幌の山、まる山にすむおばけの「マ～ル」というキャラクターがいました。マ～ルの足あとさがしやマ～ルの絵本がいっぱいあります。マ～ルの足あとはなぜ作られたのでしょう。昔のある日、イベントをやっていて、次は大人たちのイベントだが、子どもたちがやってきて「マ～ルがいない」といいました。それをきっかけに、いつもマ～ルがいるように、ということで足あとをつけたらしいです。

次は、近代美術館です。とても広くって、ふんいきがとてもよかったです。レストランやおみやげやさんなどいっぱい店がありました。そこにはアイヌの展らん会がありました。彫こくやぬのなどで、いっぱいでした。作者の藤戸竹喜さんにも会えました。その人がくまの彫こくをすべて作った人です。作者のおじいさんのおじいさんのようす『ふくろう祭り』が一番すばらしかったです。『四季のくま』や『ゴミを捨てないで！』などの作品もすばらしいです。広くてふんいきがとてもよくて、アイヌのくらしものぞけることなんてしあわせです。

ぜひ、みなさんも行ってみてください。浜明日美

美術館のたび

藤戸 竹喜『ふくろう祭り』2013

つぎのページへ!!